

青年部

一流を見る (株)大林組技術研究所を視察研修

青年部（永田幹人会長）2月全体会は2月19日（金）・20日（土）の2日間、経営開発委員会（金田琳委員長）の担当で行われ、大手ゼネコンの株式会社大林組技術研究所の視察研修会を開催しました。

この視察研修会には青年部会員18名が参加しました。参加者は午前11時30分に東京駅八重洲南口に集合し、貸切バスで技術研究所に向かいました。

車内で永田会長は「本日の視察研修では、日本を構築するトップレベルの取り組みを紹介していただけるのを楽しみにしています。」と挨拶を述べました。

今回の視察では今後10年、20年の環境変化の中で、建物や構築物がどのように変化、対応していくかについて、さまざまな実験棟を見学し、刺激を受けることができました。

到着後、当研究所管理部広報課の案内で本館（テクノステーション）1階講堂に入り、大林組が取組んでいる技術研究の概要を紹介映像で見て、田部井主任から今回の見学コースと実験棟について説明がありました。その後同氏の案内で実験棟を見学しました。



説明する(株)大林組
田部井主任

敷地内は本館のテクノステーションを中心に環境工学実験棟、電磁環境実験棟、火災工学実験棟など、いくつもの実験棟が建ち並び、その様子は日本最先端技術を誇る企業の迫力を感じました。

環境工学実験棟では都市のジオラマ製作し、ありとあらゆるところにセンサーを取り付け、ビル風の流れ、風揺れ、風圧力を計測し、防風装置や制振装置の提案のための風洞実験を行っています。また、橋梁の空力振動検証や大気汚染物質の拡散予測など多目的に



活用しています。

火災工学実験施設では、火災時における建築・木工構造物の安全性を確認するための炉内実験、載荷加熱実験について説明を受けました。

次にマイクロコンバインド発電システム、レドックスフロー蓄電池（大型蓄電池）、材料化学実験棟を見学後、オープンラボ2に入り各種制振・免震技術を採用した振動体験装置を全員で体験し、震度6弱、免震構造の揺れの差を身体で体感しました。

その後、この技術研究所の中核である各専門分野の研究者が一堂に会する大空間のワークスペースを上から見学しました。天井は高く間仕切りもなくワンフロアがそっくりワークスペース、その開放感に驚きました。このワークスペースで、下町ロケットの撮影ロケが行われ、研究者もエキストラで出演したそうです。その時のワンシーンの現場が記念モノUMENTとして展示されていました。視察を終え、品川駅のホテル近くで懇親会が開かれ一流の技術研究所を見学した感想を話し合い、交流を深めました。

